

Tokyo Amadeus Chorus



**東京アマデウス合唱団
第17回定期演奏会**

1997 **10/25**

P R O G R A M & N O T E S

Stage 1.

W. A. モーツァルト (1756~1791)

1769年12月モーツァルトは父レーオポルトと二人でイタリア旅行に出ました。ポーロニャについたのは70年3月24日でした。翌71年3月までのイタリア滞在中モーツァルトはポーロニャで音楽理論の大家ジャンバティスタ・マルティーニの許に通い、理論と作曲を教えられて大きな影響を受けました。

1. 「神よ、わたしを憐れみ給え」 Miserere KV.85 (73s)

W. A. Mozart

この曲はそのマルティーニの指導の下で1770年7月か8月に書かれた習作で、オルガンを伴うアルト・テノール・バスの三声合唱と応誦(Responsorium)とで構成されています。テキストは、詩編51篇の全文が使われていますが、今回演奏されるのは楽曲第15番(14節)の三声合唱までです。このテキストは、グレゴリオ聖歌では全部応誦で歌われ、キリストの受難を覚える聖週間や死者のための詩編として誦詠されています。

ミヒャエル・ハイドン (1737~1806)

ミヒャエル・ハイドンはヨーゼフ・ハイドンの弟で、1763年からモーツァルトの父レーオポルトの代任としてザルツブルクの宮廷首席奏者になり、81年からは息子アマデウスの後任として同宮廷大聖堂の楽長に就任したという経緯を見ても判るように、モーツァルトの意識の中に常にいる人物でした。66年、十一歳のモーツァルトがミヒャエル・ハイドン、A・C・アドルガッサーと合作でジングシュピール「第一戒律の責務」(KV35)を作曲したことはよく知られています。

2. 「四つの小品」 Vier Stücke

M. Haydn

- 2.-1 「キリストは我らのために従順なり」
Christus factus est MH. 58
- 2.-2 「神の聖徒等よ、汝らの住まいより起き出でて」
Surgite sancti MH. 311
- 2.-3 「神の聖徒等よ、すべてとりなしを行うに」
Sancti Dei MH. 312
- 2.-4 「すべての者のあがない主なるイエスよ」
Jesu Redemptor MH. 313

Vier Stücke は独立した四つの宗教作品を編集したもので、ミヒャエル・ハイドン自身の意図とは関係がありません。第1曲目の昇階誦(Graduale)として歌われた Christus factus est (MH58) は1761年3月18日にルーマニアのグロスヴァルダインの司教の許で楽長として奉職した時代に作曲したもの、第2曲目以下の三曲のモテットは82年8月27日にザルツブルクの大聖堂で行われた第1200回の管区創立記念祝祭のために書き上げられたものです。

J. G. アルブレヒツベルガー (1736~1809)

アルブレヒツベルガーはモーツァルト晩年の友人であり、モーツァルトが1791年4月9日に就任した聖シュテファン教会礼拝堂副楽長の地位を病気のため退いた際、後任者として推した人物でした。

3. 「我が助け主よ顧み給え」 Domine in auxilium

J. G. Albrechtsberger

Domine in auxilium は彼が遺した四十二曲の奉献誦(Offertorium)の一曲で、ペンテコステ後の聖日曜日に使われたと考えられますが、作曲年代は明らかではありません。アダージョの短調による沈痛な祈りに迫害される魂の嘆きがこめられ、それをほねの

けるように勝利の確信をにじませた軽やかなリズムや長調への転調をまじえた表情豊かな旋律の動きが聴かれます。後半は速い小刻みなリズムのアレルヤ誦で終わります。

4. 「我等主なる汝をほめまつる」 Te Deum laudamus KV.141 (66b)

W. A. Mozart

Te Deum laudamus はモーツァルトがイタリア旅行に出る前の1769年末に作曲されたもので、十三歳の少年モーツァルトの天才的力量がよく現れている作品です。今回は管楽器の加わらない版を使用しました。

Stage 2.

5. ミサ ソレムニス「盛儀的式用ミサ」 Missa solemnis in C KV.337

W. A. Mozart

5-1 Kyrie

5-2 Gloria

Missa solemnisは、戴冠式ミサKV317の丁度一年後に作曲され、これがザルツブルクでの最後のミサ曲作品になったと同時に、以後書かれたハ短調ミサKV427 (417a)、Requiem KV626が未完に終わったことにより、完成したミサ曲としても最後の作品になりました。使われたのは復活祭前の枝の主日すなわち1780年3月19日の日曜ミサであったと考えられています。最初にKyrieとGloriaを演奏しますが、多重テキスト方式こそ見られないものの、略式ミサ (Missa Brevis)を思わせるこの二章の手短かな作りや曲全体がわずか30分足らずで終わってしまう短さは、ハ短調ミサがKyrieとGloriaだけで45分に及ぶ長さとは比べて、やはりザルツブルク時代の特徴を現わしています。典礼全体が45分以内で終わるように規制されていたからです。ミサはここから聖書朗読とその前後の昇階誦やアレルヤ誦に入っていきますが、今回は、ここでモーツァルトがイタリア旅行から帰って始めて迎えた71年6月24日の洗礼者聖ヨハネの祝日のために作られた小品を聴いていただきます。

6. 「女より生まれし者のうちにて」 Inter natos mulierum KV.72 (74f)

W. A. Mozart

Inter natos mulierum KV72 (74f) は奉獻誦として使われたものですが、内容は十分にモテットのような性格を有し、しかも洗礼者ヨハネを称える声とキリスト（神の小羊）を指し示す声とが劇的な対話構成を成しています。両方が幾度か争ったあと、後者の穏やかな静かな声が前者を制し、アレルヤの声に包まれて終わります。

7. 教会ソナタ KV.336 (336d)

W. A. Mozart

ヴァイオリン2、バス、オルガンで演奏されるこの曲は1780年3月に作曲されたもので、アインシュタインはMissa solemnis KV337のために作られたと推定しています。

5-3 Credo

5-4 Sanctus

5-5 Benedictus

5-6 Agnus Dei

演奏は再びミサに戻って、信仰告白のCredoからAgnus Deiまでを聴いていただきます。Benedictusはほかのミサ曲には見られない異例の古典的なフーガを展開し、テキストの内容と相容れないその厳格な色彩の解釈をめぐる、これまでさまざまな論が出されて来ました。Agnus Deiは「フィガロの結婚」第二幕の伯爵夫人のカヴァティーナを思わせるソプラノのソロで歌い出され、合唱はむしろその歌い納めを飾る程度に急速に進行して、ソロ四重奏で弱奏の効果を見せて終わります。SanctusとBenedictusは連続したもので、ミサではそのあと主の祈りがあり、平和の賛歌Agnus Deiに続いて聖体拝領誦 (Communio) とともに聖体拝領が行われます。

[解説：野口 碩]

P R O F I L E

指揮 齋藤 明生

東京芸術大学卒業、同大学院修了。芸大定期演奏会のブラームス「ドイツレクイエム」でソリストに選ばれた他、在学中よりベートーヴェン「交響曲第9番」や、多くの宗教音楽のソリストを務める。92年には独ライブチヒ聖トーマス教会においてH.J.ロッチュ指揮によるカンタータ礼拝式にソリストとして出演した。また在学中より在籍している芸大バッハカンタータクラブでは多年にわたり演奏委員長を務める。声楽を岳藤豪希、R.フィッシャー、Ph.フッテンロツハー、宇田川貞夫に、宗教音楽を小林道夫、岳藤豪希の各氏に師事。現在宗教音楽研究会合唱団、渋谷混声合唱団指揮者。87年から当合唱団の指導に当たっている。

ソプラノ 高橋 節子

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修了。在学中芸大バッハカンタータクラブに在籍。芸大定期演奏会において、ハイドン「天地創造」にソリストとして出演する他、多くの宗教曲のソリストを務める。93年日演連新人推薦演奏会(札幌)に出演。93~94年国際ロータリー財団奨学生として独フライブルクに留学。97年日本声楽コンクールにて田中路子賞受賞。藤田道子、戸田敏子、伊原直子、E.M.マイヤーオールバースレーベンの各氏に師事。

アルト 戸畑 リオ

東京芸術大学修士課程修了。在学中芸大定期ベートーベン「ミサソレムニス」のオーディションに合格。ベートーベン「第九」、J.S.バッハ「口短調ミサ」などの演奏会でソリストを務める。Josef Loible、毛利準、福嶋芳明の各氏に師事。

テノール 中嶋 俊夫

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修了。イタリアのマテラータ大学に留学。故柴田睦陸、吉岡巖、木川田誠、有村祐輔、宇田川貞夫の各氏に師事。94、96、97年の夏にはイタリアのウルビーノで古楽祭に参加。これまでジョイントコンサートを行う一方、ヘンデルやバッハなどの宗教曲、および「第九」のソロを務める。また今秋、国立音大で上演された、ダ・ガリヤーノのオペラ「ダフネ」に出演した。グループ「レ・カマラード」のメンバー。

バス 箕輪 健

東京音楽大学声楽科卒業、同研究科オペラコース修了。声楽を黒田清、栗林義信の各氏に師事。これまでにコンサートソリストとして、バッハ「マタイ受難曲」モーツァルト「レクイエム」、ハイドン「メサイア」「天地創造」、C.オルフ「カルミナブラーナ」等オラトリオ作品を中心として演奏活動を行っている。96年男声カルテット「BONE BEATS」を結成し、ポップスからジャズまで幅広く活動。現在二期会準会員、東京合唱協会会員。

オルガン 水野 克彦

東京芸術大学卒業。ピアノを滝崎鎮代子、クラリネットを千葉国夫、室内楽を細野孝興の各氏に師事。オルガンの手ほどきを今井奈緒子氏に受ける。オルガン通奏低音のほか、合唱指導、ピアノ伴奏、作曲と幅広く活動。東京大学教養学部オルガン演奏会、フランス文学会、ドイツ文学会オルガン演奏会に出演。茗荷谷キリスト教会オルガニスト。日本オルガニスト協会会員、日本オルガン研究会会員。

東京アマデウスアンサンブル

海保あけみ、笠原直子、松川裕子(Vn1) 片桐恵里、大田也寸子、栗山直子(Vn.2)
伊藤恵以子(Vc.) 柳澤智之(CB.) 石橋雅一(Ob.1) 秋山典子(Ob.2) 大畠條亮(Fg.1)
前田征志(Fg.2) 海保 泉(Tp.1) 竹内 信(Tp.2) 伊沼弘能(Timp)

東京アマデウス合唱団

ソプラノ 大久保ルミ子 加藤多恵子 桑島加代子 佐藤裕子 辻村順子
永瀬久子 村松あおい 森下純子 山中ゆりか 吉田弘美
アルト 相澤美佐 甘粕利枝 伊藤正子 大崎己美代 加藤尚子 佐藤 姿
重泉秀子 鈴木寿見 菅原芳子 武井佳代子 辻 敏子 堀内順子
平野玲子 宮崎米子
テノール 伊原 宏 片岡 繁 中屋哲夫 松平新太郎 吉田一郎 吉田英人
ベース 岩沙 圭 柿沼 誓 佐竹道全 野口 碩

今宵は、お忙しい中をご来場いただき、団員一同厚くお礼申し上げます。

東京アマデウス合唱団は、1980年の創立以来、モーツァルトの作品を中心にほぼ毎年1回の定期演奏会を行ってまいりました。今回で17回目の定期演奏会を開催する運びとなりましたことは、優れた指導者に恵まれたこともさることながら、ひとえに皆様方の暖かいご支援の賜物であり、団員一同心から感謝いたしております。

1987年に初めて齊藤明生氏のご指導をいただいてから、既に10年を数えますが、前回より少しでも高いレベルの音楽を創り出すことを目標に、日々研鑽を積み重ねてまいりました。

本日の演奏会にはその成果を現わすべく、全員が大きな決意を抱きながら演奏に臨んでおります。前半は、モーツァルトの少年時代の作品二曲と同時代の関連する作曲家二人 ミハエル・ハイドン、アルブレヒツベルガーの作品をお聴きいただきます。そして後半では、モーツァルトのザルツブルク時代最後のミサ曲 Missa solemnis を進めながら、これも少年時代に作られた作品である奉献誦一曲と、さらに Missa solemnis とほぼ同時に作曲された教会ソナタを一曲、ミサの途中で演奏いたします。

この合唱団もアマチュア合唱団の例に洩れず、団員の仕事や勤務の関係上、練習時間の確保に苦しみながら、指導者の熱意と団員皆の努力により、なんとか本日の本番を迎えることができた次第であります。

本年は、前団長の橋本氏が勤務の都合から休団を余儀なくされ、後任を私が引継ぐこととなったことに加え、昨年までの練習場が廃止となり、新しい練習場の確保に団員が奔走（牛込聖バルナバ教会のご好意をいただき練習場を確保）するなど波乱の年でありました。

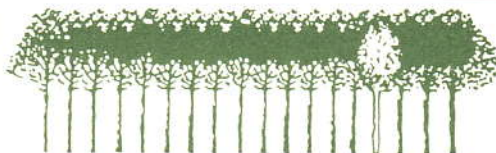
しかしながら、団長や練習場の変更などに関係なく、団員の一人一人が力を出し切るにより成り立っている合唱団であり、今回の演奏会を成功させたいと心から願っているところです。

本日は、このような背景をご考慮の上、暖かいご声援とともに演奏をお楽しみいただければ、私どもにとってこの上ない喜びです。

1997年10月25日

東京アマデウス合唱団

団長 柿沼 哲



1981 February Mozart :RÉQUIEM
1981 November Händel :MESSIHA
1982 November Fauré :RÉQUIEM
1983 September Mozart :KRÖNUNGS MESSE
1984 September Mozart :RÉQUIEM
1985 October Bach :KANTATE Nr.106
1986 October Mozart :GROSSE MESSE
1987 October Schütz :MUSIKALISCHE EXEQUIEN
1988 December Mozart :VESPERAE
1989 November Mozart :RÉQUIEM
1991 February Mozart :LITANIAE
1991 November Mozart :DOMINICUS MESSE
1992 Nov. Charpentier :MESSE DE MINUIT POUR NOËL
1993 November Mozart :MISSA BREVIS
1994 November Mozart :RÉQUIEM (JOINT CONCERT)
1995 October Bach :KANTATE Nr.182
1996 November Mozart :VESPERAE
1997 October Mozart :MISSA SOLEMNIS

歌 詞 対 訳

対訳： 野口 碩

東京アマデウス合唱団
第17回定期演奏会

1997年10月25日

1. 「神よ、わたしを憐れみ給え」
Miserere KV.85 (73s)

W. A. Mozart

1. Miserere (アルト、テノール、バス三声合唱)
Miserere mei, Deus,
secundum magnam misericordiam tuam.
神よ、我れを憐れみ給え、
汝の大なる憐れみの御心よりて。
2. Et secundum (応唱)
Et secundum multitudinem miserationem tuarum:
dele iniquitatem meam.
そして汝の憐れみの多きによりて、
我がとがを消し去り給え。
3. Amplius lava me (三声合唱)
Amplius lava me ab iniquitate mea:
et a peccato meo munda me.
我が忌まわしきとがより我をいよよ洗いさり、
おのが罪より我をきよめ給え。
4. Quoniam (応唱)
Quoniam iniquitatem meam ego cognosco:
et peccatum meum contra me est semper.
我がとがを我知り、
我が罪常に我に面してあればなり。
5. Tibi soli (三声合唱)
Tibi soli peccavi, et malum coram te feci:
ut justificeris in sermonibus tuis,
et vincas cum judicaris.
我汝のみに罪を犯し、御前に悪しき事なせり。
汝は物言い給う時に義とせられ、
さばかるる時に勝ち給えばなり。
6. Ecce enim (応唱)
Ecce enim in iniquitatibus conceptus sum:
et in peccatis concepit me mater mea.
見よ! 我はまことにとがの内にみごもられ、
我が母は我を罪のうちに生めり。
7. Ecce enim (三声合唱)
Ecce enim veritatem dilexisti:
incerta et occulta sapientiae tuae
manifesta mihi.
見よ! まことに汝は真理を愛で給えり。
はかりがたき、秘められたる汝の御知恵を
我に明かし給え。
8. Asperges me (応唱)
Asperges me hyssopo, et mundabor:
lavabis me et super nivem dealbabor.
ヒソブを注ぎ給わば、我きよめられん。
我を洗い給わば、雪よりも白くせられん。
9. Auditui meo (三声合唱)
Auditui meo dabis gaudium et laetitiam:
et exultabunt ossa humiliata.
汝は我が聴く事に喜びと楽しみを賜い、
低くせられし骨は踊り上がりて喜ばん。
10. Averte (応唱)
Averte faciem tuam a peccatis meis:
et omnes iniquitates meas dele.
汝の御顔を我が罪よりそむけ、
我がすべてのとがを消し給え。
11. Cor mundum (三声合唱)
Cor mundum crea in me, Deus:
et spiritum rectum innova
in visceribus meis.
神よ、きよき心を我がためにつくり、
直き霊を新たにし給え、
我がはらわたの内にて。
12. Ne projicias (応唱)
Ne projicias me a facie tua:
et spiritum sanctum tuum ne auferas a me.
汝の御前より我を遠ざけ給わず、
汝の聖き霊を我より取り去り給わざらん事を。
13. Redde mihi laetitiam (三声合唱)
Redde mihi laetitiam salutaris tui:
et spiritu principali confirma me.
汝の救いの喜びを我に返し、
初めにありし霊によりて我を強め給え。
14. Decebo (応唱)

- Decebo iniquos vias tuas:
et impii ad te convertentur.
- 我汝の道を教えん、
さらば罪に汚れし者汝に立ち帰るべく。
15. Libera me (三声合唱)
Libera me de sanguinibus,
Deus, salutis meae:
et exsultabit lingua mea justitiam tuam.
- 流血より我を解き放ち給え、
神よ、我が救いの神よ。
我が舌は汝の正しきに歎びの声を上ぐべく。
16. Domine (応唱)
Domine labia mea aperies:
et os meum annuntiabit laudem tuam.
- 主よ、我が唇を開き給まわば、
我が口汝の賛美を知らさん。
- 本日は16番の応誦まで歌います。
17. Quoniam (応唱)
Quoniam si voluisses sacrificium,
dedissem utique:
holocaustis non delectaberis.
- もし汝我に犠牲を求め給わば、
いつにてもささぐべし。
されど、燔祭には汝喜び給わじ。
18. Sacrificium (応唱)
Sacrificium Deo Spiritus contribulatus:
cor contritum et humiliatam
Deus non despicias.
- 神への犠牲は苦しみを受けし魂。
くだかれ、卑くせられし心を
神は軽しめ給わず。
19. Benigne (応唱)
Benigne fac Domine in bona voluntate tua Sion:
ut aedificentur muri Jerusalem.
- 主よ、優しき御意にて汝のシオンを恵み、
願わくは、エルサレムに壁の築かれんことを。
20. Tunc acceptabis (応唱)
Tunc acceptabis sacrificium justitiae,
oblaciones et holocausta:
tunc imponent super altare tuum vitulos.
- その時汝正しき犠牲と
奉獻と燔祭を受け給わん。
その時彼等汝の祭壇に子牛を置くべし。
21. Requiem (応唱)
Requiem aeternam dona eis Domine.
- 主よ、彼等にとこしえの平安を与え給え。
22. Et lux perpetua (応唱)
Et lux perpetua luceat eis.
- そして彼等に絶えざる光の射さんことを。

2. 「四つの小品」

Vier Stücke

M. Haydn

1. Christus factus est MH58

Christus factus est pro nobis obediens
usque ad mortem,
mortem autem crucis.

キリストは我らのために従順なり
死に至るまで、
且つ十字架の死に至るまでも。

2. Surgite sancti Dei MH311

Surgite sancti Dei de mansionibus vestris,
loca sanctificate, plebem benedicite,
et nos homines peccatores
in pace custodite.

神の聖徒等よ、汝らの住まいより起き出でて、
その場を聖別し、名もなき民等を祝福し、
我ら罪深き人びとを
平安のうちに守り給え。

3. Sancti Dei MH312

Sancti Dei, omnes intercedere
dignemini apud Eum,
qui vos elegit pro nostris necessitatibus,
ac nostra omniumque salute,
pro nostra omniumque salute.

神の聖徒等よ、すべてとりなしを行うに
ふさわしき者なり、神の御そばにて。
神は我らの必要のために君らを選び給えり、
且つ我らすべての者のさいわいのために、
我らすべての者のさいわいのために。

4. Jesu, Redemptor omnium MH313

Jesu, Redemptor omnium
perpes corona praesulum,
in hac die clementibus,
indulgeas precantibus.

すべての者のあがない主なるイエスよ、
とこしえの大祭司の冠よ、
この慈悲深き日に
祈れる者を御心に留め給わんことを。

3. 「我が助け主よ願み給え」

Domine in auxilium

J. G. Albrechtsberger

Domine, in auxilium meum respice:
confundantur et revereantur,
qui quaerunt animam meam,
ut auferant eam. Alleluja.

主よ、我を助けんとて願み給え。
彼ら狼狽し、恐れおののけば、
我が命を得んとするも、
いかでそれを奪い去らんや。アレルヤ。

4. 「我等主なる汝をほめまつる」
Te Deum laudamus KV.141 (66b)

W. A. Mozart

Te Deum laudamus:
te Dominum confitemur.
Te aeternum Patrem omnis terra veneratur.
Tibi omnes Angeli,
tibi coeli et universae Potestates;
Tibi Cherubim et Seraphim
incessabili voce proclamant;
Sanctus, Sanctus, Sanctus Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt coeli et terra
majestatis gloriae tuae.
Te gloriosus Apostolorum chorus:
Te Prophetarum laudabilis numerus;
Te Martyrum candidatus laudat exercitus.
Te per orbem terrarum
sancta confitetur Ecclesia:
Patrem immensae majestatis:
Venerandum tuum verum, et unicum Filium;
Sanctum quoque Paraclitum Spiritum.
Tu Rex gloriae, Christe.
Tu Patris sempiternus es Filius.
Tu ad liberandum suscepturus hominem,
non horruisti Virginis uterum.
Tu devicto mortis aculeo,
aperuisti credentibus regna coelorum.
Tu ad dexteram Dei sedes, in Gloria Patris.
Judex crederis esse venturus.

Te ergo quaesumus, tuis famulis subveni,
quos pretioso sanguine redemisti.

Aeterna fac cum sanctis tuis
in gloria numerari.
Salvum fac populum tuum Domine,
et benedic hereditati tuae.
Et rege eos,
et extolle illos usque in aeternum.
Per singulos dies, benedicimus te.
Et laudamus nomen tuum in saeculum,
et in saeculum saeculi.
Dignare Domine die isto
sine peccato nos custodire.
Miserere nostri Domine.
Fiat misericordia tua Domine super nos,
quemadmodum speravimus in te.

In te Domine speravi,
non confundar in aeternum.

我ら汝神をほめまつる:
汝主を告白しまつる。
全地は汝永遠の御父を敬いまつる。
全ての御使らも汝に、
諸々の天と全ての主権の君も汝に。
ケルビムもセラフィムも汝に
止まざる声もて叫ぶ、
聖なる、聖なる、聖なる万軍の主なる神、
天と地に満てり、
汝の大なる栄光。
栄光ある使徒達の群れも汝を、
ほむべき預言者達の大群も汝を、
白衣まとえる殉教者の軍勢も汝をほめまつる。
世界中にて汝を
聖なる教会は告白しまつる、
限りなき御稜威の御父を、
あがむべき汝の正義を、そして御ひとり子を、
且つ、聖なる助け主なる聖霊を。
汝は栄光の王キリスト。
汝は御父にはとこしえの御子なり。
汝は人間の解き放ちを引き受け給わんと、
処女の胎を恐れざりき。
汝は死のとげに打ち勝ち、
天の支配を任せられたるを明かし給えり。
今汝は御父の栄光を受けて神の右に座し給う。
裁き主来たらんとするを信じられんことを。

さらば我ら願いまつる、汝の僕等を助け給え、
貴き血潮にてあがない給いし者なれば。

汝の聖徒らとともにとこしえに
栄光の内に数えらるる者となし給え。
主よ、汝の民を健やかにし、
汝の遺産に祝福を与え給え。
そしてそれらを支配し、
彼らを絶えずとこしえに高くなし給え。
日ごとに、我ら汝をほめまつる。
そして汝の御名を生くるかぎり、
とこしえにたたえまつる。
主よ、彼の日に覚え給え、
我らを罪なく、守り給うにふさわしきものと。
主よ、我らを憐れみ給え。
主よ、我らに汝の同情生じ給わんことを、
我ら汝に望みを置きしごとく。

主よ、我汝に望みを置きたれば、
とこしえに心乱さるること無からん。

5. ミサ ソレムニス「盛儀的式用ミサ」
Missa solemnis in C KV.337

W. A. Mozart

1. Kyrie

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

主よ、あわれみ給え。
キリストよ、あわれみ給え。
主よ、あわれみ給え。

2. Gloria

Gloria in excelsis Deo.
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.
Laudamus te.
Benedicimus te.
Adoramus te.
Glorificamus te.
Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.
Domine Deus, Rex caelestis. Deus Pater omnipotens.
Domine Fili unigenite.
Jesu Christe.
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.
Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.
Qui tollis peccata mundi,
suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis.
Quoniam tu solus Sanctus.
Tu solus Dominus.
Tu solus Altissimus, Jesu Christe.
Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris.
Amen.

いと高き処には栄光、神にあれ。
そして地には平和、善意の人々にあれ。
汝をほめたたえまつる。
汝を拝みまつる。
汝をあがめまつる。
汝の栄光をたたえまつる。
汝の大なる栄光のゆえに感謝を表しまつる。
神、即ち天の王、全能の御父にます神なる主よ。
御ひとり子なる主よ。
イエス・キリストよ。
神にして、神の小羊、御父の御子なる主よ。
世の罪を除き給う君、我らをあわれみ給え。
世の罪を除き給う君、
我らの救いの願いを受けいれ給え。
御父の右に座し給う君、我らをあわれみ給え。
汝のみ聖なる君にませば。
汝のみ主なり。
汝のみいと高し、イエス・キリストよ。
父なる神の栄光のうちにあります聖霊とともに。
アメン。

6. 「女より生まれし者のうちにて」
Inter natos mulierum KV.72 (74f)

W. A. Mozart

Inter natos mulierum
non surrexit major Joanne Baptista,
qui viam Domino praeparavit in eremo.
(non, non)
Ecce agnus Dei, qui tollit peccata mundi.
Alleluja.

女より生まれし者のうち
洗礼者ヨハネに優る者現れざりき、
彼は荒野にて主に道を備えたれば。
(いな、さにあらず)
見よ、世の罪を取り除く神の小羊。
アレルヤ。

3. Credo

Credo in unum Deum, Patrem omnipotentem,
factorem caeli et terrae,
visibilium omnium, et invisibilium.
Et in unum Dominum Jesum Christum,
Filius Dei unigenitum.
Et ex Patre natum ante omnia saecula.
Deum de Deo, lumen de lumine,
Deum verum de Deo vero.
Genitum, non factum, consubstantialem Patri:
per quem omnia facta sunt.
Qui propter nos homines,
et propter nostram salutem descendit de caeli.
Et incarnatus est de Spiritu Sancto
ex Maria Virgine:
Et homo factus est.

我は信ず、全能の御父なる唯一の神を、
天と地の造り主を、
全ての見ゆるものと見えざるものの造り主を。
そして我らの主イエス・キリストを信ず、
ひとり子として生まれ給いし神の御子を。
御父よりよろずの世の前に生まれ給いし御子を。
神よりの神、光よりの光を、
まことの神よりのまことの神を。
造られずして生まれ給える、御父と一体なる君を。
全ての造られしものその君より成れり。
その君我ら人類のため、
我らの救いのために天より降り給う。
そして聖霊により受肉し給い、
処女マリアより出で、
人と成り給えり。

Crucifixus etiam pro nobis:
sub Pontio Pilato passus,
et sepultus est.
Et resurrexit tertia die,
secundum Scripturas.
Et ascendit in caelum:
sedet ad dexteram Patris.
Et iterum venturus est cum gloria,
judicare vivos et mortuos:
cujus regni non erit finis.
Et in Spiritum Sanctum, Dominum,
Et vivificantem:
Qui ex Patre Filioque procedit.
Qui cum Patre et Filio simul adoratur,
et conglorificatur:
qui locutus est per Prophetas.
Et unam sanctam catholicam
et apostolicam Ecclesiam.
Confiteor unum baptisma
in remissionem peccatorum.
Et exspecto resurrectionem mortuorum.
Et vitam venturi saeculi.
Amen.

4. Sanctus

Sanctus, Sanctus,
Sanctus Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt caeli et terra gloria tua.
Hosanna in excelsis.

5. Benedictus

Benedictus qui venit in nomine Domini.
Hosanna in excelsis.

6. Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
miserere nobis.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
dona nobis pacem.

我らのために十字架にさえつけられ給えり。
すなわちポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
葬られ給えり。
そして三日目によみ返り給えり、
聖書に従いて。
そして天に昇り給う。
即ち御父の右に座し給う。
そして栄光とともに再び来たり給わんとす、
生けるものと死せるものをさばき給うなり。
されば、その君の王権は止むこと無からん。
且つ聖霊なる主を信ず。
そして生命あらせ給う君を信ず。
そは御父より御子に現れ給う。
そは御父及び御子と同時にあがめられ、
たたえらるるなり。
即ちそは預言者達により言い置かれし所なり。
そして一にして聖なる公教の、
且つ使徒継承の教会を信ず。
我は唯一の洗礼を認む、
罪の赦しの時に。
そして死せる者のよみがえりを望む。
併せて来らんとする世の命をも。
ア-メン。

聖なるかな、聖なるかな、
聖なるかな、万軍の主なる神。
汝の栄光天地に満てり。
いと高き所にホサナ(歓呼の言葉)。

ほむべきかな、主の御名によりて来たる者。
いと高き所にホサナ。

世の罪を除き給う神の小羊よ。
我らを憐れみ給え。
世の罪を除き給う神の小羊よ。
我らに平安を与え給え。